

# 『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.11

## 安芸市立安芸第一小学校 授業研究会

平成30年11月1日(木)

算数科 第1学年「おおきさくらべ」 中屋 美晴 教諭



授業改善を確かな形にするために、新たな学び場がスタートしました。本授業研究会は、これからの「高知の授業づくり改革」に向けて、こういった視点が大切なのかを参加者と共有し、明日からの授業づくりの方向性を確認するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業の質を高めることを目的としています。

### 本時の目標

任意単位とするものの「いくつ分」として数値化することで、面積を表現したり、その大きさを判断したりすることができる。

### 授業の視点

\* 1つ分の広さといくつ分の数に着目し、1つ分の広さが同じであればいくつ分の数の広さが決まり、いくつ分の数が同じであれば1つ分の広さで広さがきまることを、条件を整理しながら考えることができたか。



### 最終板書

め どうやってくらべたらいいかな。

も どれがひろいかな。

あ い う

1つ分のひろさ

いくつ分の数が 8つ 4つ 4つ

あ と い をくらべると...

いくつ分の数が 8つ 4つ

い と う をくらべると...

1つ分のひろさ 4つ 4つ

1つ分のひろさ 8つ 4つ

み ひろげずにひろさがわかる。

1つ分のひろさ — おなじ

いくつ分の数が — あ 8つ

いくつ分の数が — い 4つ

1つ分のひろさ — い 4つ

1つ分のひろさ — う 4つ

1つ分のひろさ — あ 8つ

いくつ分の数が — おなじ

1つ分のひろさ — ちがう

いくつ分の数が — ちがう

りょうほう ちがうからくらべられなく

おなじです。

### ここがポイント!

本単元は、従来の教科書教材にある「長さくらべ」「広さくらべ」の2つの単元を1つにし、「おおきさくらべ」として単元化を図っています。したがって、本時では既習の学びを上手く生かすことが大切です。つまり、「長さ」のときに使ったアイディアの共通性に着眼させ、「広さ」の学習でも同じことをやっていたと子供に気付かせていくことがポイントです。また、「たたむ」ということと「広げる」ということの活動を往復させることで、単位への関心を引き出しながら、数値化していくプロセスを丁寧に描くこともポイントです。

## 協議の視点

- \* 2つの単元をつなげることで既習を活かせる学習になっていたか。スパイラル効果はあったか。
- \* 見方・考え方を鍛える問いの連続になっていたか。

### 授業リフレクション

授業リフレクションでは、「既習を活かせる学習になっていたか。スパイラル効果はあったか。」「見方・考え方を鍛える問いの連続になっていたか。」について協議されました。参加者からは、「任意単位のいくつ分というつながりで授業をすることで、既習を活かせる単元構想になっていた。」「何をそろえて、何を比べたのかという押さえが弱かった。」「見方・考え方を育てるためには焦点化した問いが必要なので前提条件を絞ったほうがよかった。」などの意見が出されました。

### 子どもの思考に寄り添う学びを描く

本時は、任意単位を見つけるために重ねたシートの提示から始まりました。しかし、前時に直接比較を経験している子供にとって、それは自然な流れであったでしょうか。子供たちの前時からの思考をつなげるためには、シートは広げたままの状態をまず比較させ、子供に前時と同じようにできると安心させて



あげます。その後シートを積み、「広げたときには、㊦のシートが広がったのに、重ねたら、㊦と㊧が同じになった。」というところに着目させるようにします。そして、「シートを重ねてしまったら、比べることはできませんか。」と子供に聞きます。そして「広げたときは㊦が広がったから、重ねても㊦が広いよ。」という意見を引き出しながら、「なぜ、重ねたままでも㊦が広いと分かるのですか。」と聞くことで、単位へ着眼させていくことが大切です。

### 見方・考え方の土台をつくる

広げたシートの単位の大きさは、それぞれの広げた状態の大きさです。しかし、重ねるとそれぞれの一つ分が単位となります。つまり、本時は単分量当たりの大きさの素地経験でもあります。㊦と㊧は、重ねると一つ分の大きさ同じですが、いくつ分は異なるということへの意識を子供にもっと持たせていくことが大切です。それが見方・考え方の土台をつくるということです。そのためには、教師自身が教えているものの先が見えないといけません。学びの系統をつかむことができていると、その都度、意識的に明示的指導ができるということです。



## 提案授業から見えてきたこと

単元を統合することで子どもたちに「長さや広さは同じように比べられる」という気づきが生まれました。今後、子どもの発見を拾い上げ、板書に書き込みながら、子どもの学びが生きる授業づくりをしていきたいです。そして、教師の都合で進む授業ではなく、子どもの思考を大切に、その考えを整理しながら、子どもの考えが発展していく学びをつくりたいです。



中屋 美晴 教諭

## 参加者の声

- 単元を通してどのような力を付けたいか。そのプロセスや意図がよく分かりました。
- 単元デザインを見ると広さと長さの流れが同じで共有するところが多く、2つの単元を統合的に見ることが大切だと感じました。
- 単元デザインすることの難しさを本実践から感じるとともに、子どもたちの実態に合わせることで子どもたちの理解力の向上につながると感じました。
- 学びの足跡を残し、子どもの思考が自然に流れるような学びの足跡を効果的に取り入れていきたいです。
- 教材研究をする際に、今後、どの単元に生かされる教材なのか明確にし、素地を育てることを意識しながら指導計画を立てていきたいです。

## check!

次回 平成31年2月22日(金) 13時5分から 授業づくり春季セミナー 5年「データの活用」